

1. 申請資格について

1-1 年齢

年齢制限はありますか？

自然科学系は2021年4月1日時点で40歳以下、人文・社会科学系は50歳以下であることとしています。これらの制限から外れている方の申請は受理いたしません。

1-2 所属機関、役職、雇用形態等

どの大学・研究機関が指定校かを教えてください。

指定校については、公開しておりません。ご自身の所属される大学、機関が指定校かどうかについては、ご所属先の担当部署にお問合せください。なお、指定校、機関には4月上旬に募集案内をお送りしています。

現在任期付きの職にあり、研究期間の途中で任期が切れますが、申請できますか？

申請できます。

大学に所属の場合は助教、特任助教以上ということですが、大学以外の場合は？

助教または特任助教に相当する役職の方とします。

大学院生やポスドクは申請できますか？

申請できません。

申請時点では指定校に所属していませんが、来年の4月から指定校に異動することが決まっています。その場合、申請できますか？

申請できません。申請時点でポスドクだが来年の4月から助教となられるような場合も同様です。

申請時点で、所属先のサバティカル制度により海外に滞在中ですが、申請できますか？

申請時点で指定校で助教、特任助教以上の身分を保持したまま、サバティカル制度を利用して一時的に海外に在住している場合は、申請は可能です。ただし、助成研究期間開始時には帰国し、助成対象の研究は国内で行っていただくことが必要です。

1-3 国籍、申請数

外国籍の人が申請することは可能ですか？

申請資格を満たしていれば、国籍は問いません。

自然科学系、人文・社会科学系の両方に申請することはできますか？

申請は一人1件のみです。

2. 申請書について

2-1. 申請書の構成

申請書はどのような構成で、どこから様式を入手できますか？

所定のサイト (<https://inamori.yoshida-p.net/>) にアクセスし、マイページを作成してください。申請書は5ページで構成されています。1～2ページはマイページに入力いただいた内容がPDF化されます。3～5ページはマイページからMS-Word形式の様式をダウンロードして作成いただきます。詳細は募集要項をご覧ください。

2-2. 申請書の記入

日本語以外での申請は可能ですか？

募集要項および申請書様式は日本語のみです。所定の申請用webページで直接入力いただく部分のうち「和文」と指定されている箇所以外、および申請書ワードファイルの「研究計画の概要」から「研究者の主な著書・論文」までの部分については英文での記入は可能です。日本語または英語以外の言語での申請は受け付けません。

アブストラクトは和文では500字以内となっていますが、英語で記入する場合の文字数は？

スペースを含め、半角英数1000字以内です。

申請書のページを増やしたり、枠を拡大したりすることは可能ですか？

申請書の5ページ（他の助成金・補助金・奨励金記載ページ）以外のページの増加、レイアウト変更はできません。

スペースが限られているので、字を小さくしてもいいですか？

3ページから4ページは、フォントはMSPゴシック11ポイントを厳守してください。

研究計画の概要欄に図表を挿入することは可能でしょうか？ また、図はカラーでもよいですか？

どちらも結構です。図を挿入する場合、図内あるいは表題の文字ポイントの指定まではしませんが、表題の文字やグラフ上の数字があまり小さくならないようにご注意ください。図を入れることで枠を拡大させるのは認められません。

コロナ禍のために明確な研究の見通しを立てにくいのですが、申請できますか？

申請は可能です。わかる範囲で研究計画をお書きください。

誰かに推薦文を書いてもらって添付すること、あるいは申請書の他に論文等の資料を添付することは可能ですか？

できません。選考は申請書のみで行われます。

申請書 5 ページについて、2019 年度以降受領した他の助成金・補助金・奨励金があれば・・・とありますが、2019 年度以前から継続しているものについてはどのように書けばいいですか。

受領期間の欄はそのまま（記入例：2018 年度～2020 年度）と記入し、受領金額は 2019 年度以降の金額を記入してください。その下に小さい字で結構ですので「(2019 年度～2020 年度受領分)」と記入してください。

申請書 5 ページの「支給団体名および研究費目」の欄はどのように記入すればいいですか？

記入例：日本学術振興会 科研費 若手研究
支給団体名だけでなく、助成の名称も忘れずに記入してください。

3. 申請数および推薦者について

3-1. 機関あたりの申請数

1 機関あたり、あるいは推薦者 1 名あたりの申請数に制限はありますか？

ありません。

3-2. 推薦者

どのような役職の人が推薦者になれるのでしょうか？

申請には申請者の所属する研究機関の長の推薦を必要とします。具体的には大学の場合ですと、総長、学長、機構長、学部長、研究科長、センター長、研究所長、附属病院長などの役職の方となります。また、大学または機構などの外部資金担当理事でも可能です。

推薦者の役割は？

募集要項に記載している資格要件を申請者が有していること、助成金を間接経費に充当することができないことを確認の上、ご推薦ください。

推薦者欄の押印は、私印では不可でしょうか？

公印の押された申請書のみ受理いたします。

4. 選考

選考はどのように行われるのでしょうか？

まず、選考委員が分担して書面審査を行います。次に、自然科学系と人文・社会科学系ごとに選考委員会を開催し、書面審査の結果に基づいて合議審査を行い、助成対象者を内定します。最終的に理事会にて正式決定いたします。

5. 内定後

内定の通知はあるのでしょうか？

選考委員会にて助成対象者に選ばれた方には、その旨をメールでご連絡します。

助成年度開始時には申請時点とは別の機関に異動することになりました。何か手続きは必要ですか？

助成が内定した方で助成年度開始時（2022年4月）の所属機関が申請時点と異なる場合は、新しい所属先の研究機関の長による承諾書を提出いただきます。また、異動先が海外の場合は本助成を受けることはできません。

上の項目にある所属先の研究機関の長による承諾書とは、どのような内容のものですか？

- ・当該助成対象者が常勤で所属機関に助教相当以上の職で正式に雇用されていること、主体的に研究を行えることの証明
- ・当該助成対象者が当該研究機関で助成対象研究を行うことを承諾、および稲盛研究助成の助成金について、間接経費を徴収しないことの承諾

6. 決定後について

募集要項には研究期間は1年ないし2年とあります。2年と申請した場合、2回助成金をもらえるのですか？

助成金の贈呈は1回（100万円）だけです。研究期間は報告書の提出時期が1年後か2年後かの差となります。ただし、伯楽制度の対象者に選ばれた方には、毎年100万円合計200万円を助成します。

研究期間を2年とした場合、助成金は年度をまたいで使用することになりますが、その際の手続きはどのようなものですか？

研究期間2年の場合は、2年間を通じて100万円をご使用いただければ結構です。特別な手続きは不要です。

調査に行く予定だった地域で自然災害が発生し、行けなくなりました。研究計画を変更したり、研究期間を延長したりすることは可能ですか？

可能です。地震、台風などの自然災害、戦争、内乱、テロ行為、重大な疾病など、対象者の責に帰すことができない事由や、出産・育児、介護などのライフサイクルにおいて生じる事由により、研究計画を変更あるいは研究期間を延長することは可能です。

同時期に他の研究助成を受けることは可能ですか？

可能です。ただし、稲盛財団の他の助成と重複して受けることはできません。

他の研究助成との合算使用は可能ですか？

可能です。